

上野学園国際コース

令和6年度教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）

概要

上野学園国際コースは、英語経験の少ない日本人の生徒が、6年間の学習を経て国際資格を取得し、同時に日本の高等学校卒業資格も得られるように、ケンブリッジ国際教育プログラムと文部科学省の中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を統合したカリキュラムで構成している。（高等学校部分は検討中）

中学校においては、「国語」、「社会」、「道徳」は日本語で、それ以外の教科は英語で学習する構成となっており、生徒は日本人としてのアイデンティティを保ちながら、グローバルな視野、21世紀型スキル、そして高度な英語運用能力を身につけることができるようになっている。

また、本コースは、上野学園の建学の精神である「自覚」に基づき、学則第1条に掲げられている「努力と親切」を教育目標としている。

自己評価

以下の4つの主要領域に分けて評価を行った。

1. カリキュラム
2. 生徒の育成
3. 教員の育成
4. 教育の充実

評価基準

A:非常に良い B:概ね良い C:一部に課題がある D:改善が必要

1. カリキュラム	
文部科学省の中学校学習指導要領とケンブリッジ中等教育プログラムを効果的に統合し、それらを踏まえたカリキュラムを構成している。 このカリキュラムは、テーマに基づく学習を通じて各教科を有機的に結びつけており、すべての教科が共通のテーマに沿って同時に進行することで、生徒は学習の核となる概念への理解を深めるとともに、教科間の関連性に気づき、教科を越えた共通の言語表現等を学び英語力を効果的に高めることができる。 また、「国語」「社会」「道徳」は、日本人としてのアイデンティティを育み、日本社会の一員として必要な知識や価値観を養うことを目的として、日本語で授業を行っている。	
取り組みの成果	令和7年度重点課題
全体として、導入初年度はほぼ計画どおりの学習成果が達成できた。 日本の教育課程の「技術・家庭」は、分野や内容を分割し、「科学(Science)」、「体育(PE)」、「グローバルな視点(Global Perspectives)」、「美術(Art & Design)」といったケンブリッジ中等教育カリキュラムの科目と整合性を図れるようにした。	一部の科目においてカリキュラムの見直しを行い、教科間の関連性をより効果的にする。 また、英語がすべての科目において体系的に活用されるよう工夫する。 さらに、保護者および生徒が高校課程（ASおよびAレベル）のシラバスを理解できるよう、保護者会での説明に加えて、シラバスの文書配布を通じた情報提供を行う。
評価	B

2. 生徒の育成

本コースの目標は、生徒が主体的、協働的、積極的に、学ぶことを楽しめるようになることである。
また、本校における「親切」について、事例に触れながら学び、道徳性を養う。

さらに、各教科を英語で効果的に学ぶために、生徒が同級生や教員と良好な関係を構築する。	
取り組みの成果	令和7年度重点課題
クラスの結束力は高く、生徒全員が自らの個性を表現することができた。 生徒は、英語によるプレゼンテーションやディスカッションに積極的に取り組み、次第に自信をつけてきている。 また、英語および数学に関して放課後サポートを実施し、基礎力の向上を図った。生徒は、自ら課題を設定し、個別に教員支援を受けて課題解決に向けて努力した。 日本語による授業では、国語については、母語としての言語運用を学び、社会では地理と歴史について学び、道徳では「親切」について考察を深めた。	生徒の英語力については、語彙力やリスニング力において大きな向上が見られた。特にプレゼンテーションのような準備された課題で良い成果が見られたが、一方で、授業中のグループディスカッションなど、即興的・自由度の高い場面では、英語力が十分でない側面も見受けられた。また、英作文に苦手意識を持つ生徒もいる。 こうした課題に対応するため、スピーキングやライティングのアウトプットをより効果的に授業に取り入れるための教員研修を実施する予定である。さらに、生徒向けに放課後の補習的な英語支援も提供する予定である。
評価	B

3. 教員の育成	
教員が指導力を高め、生徒により良い学習成果をもたらすことを目的として、定期的な研修を実施した。	
取り組みの成果	令和7年度重点課題
授業開始前には、外部専門家による CLIL 研修を含む包括的な初期研修プログラムを実施し、すべての教師が各科目において基礎的なケンブリッジ研修を受講した。 あわせて、授業の観察とその後の研究協議を定期的に行う仕組みを導入した。	研修は年間の特定の時期に集中して実施されていたが、今後は年間を通じて継続的な研修を充実させることを目指す。これまで研修は主に英語による授業を担当する教員を対象としていたが、令和7年度は日本語による授業を担当する教員も研修に含める予定である。 研修のテーマは、授業観察、研修に関する調査、保護者および生徒からの意見を通じて把握し、令和7年度第1学期からテーマに沿った研修を実施する。
評価	A

研修の詳細：

令和6年4月1-3日：シラバス、生徒、成長マインドセット、生徒中心の学習、教材および授業計画に関する初期研修ワークショップ

令和6年4月3日：CLIL 研修

令和6年10月9日-11月17日：ケンブリッジ入門研修

4. 教育の充実	
教育の充実の目的は、行事や講演など生徒が通常の授業の枠を超えて有意義な経験を積む機会を提供し、他分野への関心を喚起するとともに、将来の学習や自分の進路について考え始める契機とすることである。さらに、生徒が学習内容とこれらの経験との関連性を見出せるよう支援する。	
取り組みの成果	令和7年度重点課題
教室の枠を超えた学びの一環として、上野公園でのフィールドワークを企画した。 また、都市の様々な環境を巡るアーバンハイクを実施し、音楽と美術、理科を組み合わせ、英語を媒介として音楽作品を制作するワークショップであるミュージック・ウィークを開催	プログラムを拡大し、生徒からの要望も取り入れる予定である。また、2年生を対象にデューク・オブ・エジンバラ国際賞の制度を導入する。これは、若者が自己成長と地域社会への参加を通じて自分に挑戦することを促す、国際的な青少年育成プログラムである。参加者は、ボランティア活動、

した。 さらに、数名の外部講師を招へいし、多様な分野で活躍する方々の話を聴く機会を設けた。 これらの活動はいずれも生徒から高い評価を受け、記憶に残る貴重な経験となった。 本プログラムを通じて、生徒は同級生と協力して取り組む力、物事を段取りよく進める力、人と上手にコミュニケーションをとる力、困難を乗り越える力、そして自分に自信を持つ力を身につけた。また、学校外でさまざまな分野に携わる人々と交流する機会も得た。	身体活動、新しいスキルの習得、冒険的な旅への参加という4つの分野で活動を行う。この賞を、生徒の自信、回復力、リーダーシップ、責任感の醸成に役立てる。
評価	A

教育の充実活動：

令和6年4月：上野公園でのフィールドワーク

令和6年6月：「国境なき医師団」からのゲストスピーカーによる講演

令和6年10月：禅僧による講話

令和6年11月：アーバンハイク

令和6年12月：ミュージック・ウィーク

生徒による評価

以下の評価は、令和6年度本コース1年生を対象としたアンケート結果に基づいている。

(1) カリキュラム、学習、英語力の向上

質問	そう思う %	どちらとも 言えない %	そう思わな い %
積極的に授業に参加できた（ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど）。	100	－	－
科目のサポートを十分に受けられた。	80	20	－
先生は十分な準備と熱意を持って授業を行っていた。	100	－	－
授業内容はよく理解できた。	60	40	－
リスニング力は授業を通して向上した。	80	20	－
スピーキング力は授業を通して向上した。	80	20	－
リーディング力は授業を通して向上した。	80	20	－
ライティング力は授業を通して向上した。	60	40	－

自由記述よりまとめ

生徒の学校生活および友人関係に対する満足度は総じて高く、クラス内での人間関係は良好に保たれている。ペアワークやグループワーク、ディスカッションといった協働的な学習活動にも積極的に取り組んでおり、同級生と協力する中で理解を深めている様子がうかがえる。クラス全体の雰囲気も落ち着いており、教員による指導は、生徒から「親身である」と評価されている。英語による学習には一定の難しさを感じているものの、教員の丁寧な支援と指導によって、学習を継続する意欲を保っている生徒が多い。

(2) 教育充実プログラム

活動	楽しんだ %	どちらとも 言えない %	楽しめな かった %
「国境なき医師団」からのゲストスピーカーによる講演	85	－	15
禅僧による講話	85	－	15
上野公園でのフィールドワーク	100	－	－

アーバンハイク	100	-	-
ミュージック・ウィーク	100	-	-

自由記述よりまとめ

生徒からは、海外渡航を伴う活動や、ボランティア等の国際的な活動への参加を希望する傾向が見られた。自然の中で過ごす体験に対しては新鮮さや楽しさを感じる様子がうかがえる。芸術的な分野への興味も示されており、創造的な表現活動に対する意欲も見受けられた。

外部講師による講話への関心も高く、今後さらに機会が増えることを望む声が寄せられている。

中でも、実体験や職業に関する話を通じた学びを重視する傾向が明らかとなり、特に動物関連の専門家による講話を希望する声も確認された。

保護者による評価

以下の評価は、令和6年度本コース1年生の保護者を対象としたアンケート結果に基づいている。

質問	そう思う %	どちらとも言えない %	そう思わない %
国際コース全体に、どの程度ご満足いただいていますか。	85	15	-
本コースのプログラムは、すべての教科においてお子さまの学習を十分に支援していると感じますか。	85	15	-
本プログラムは、お子さまの英語力の向上に効果的だと感じますか。	70	15	15
授業の質について、どの程度ご満足いただいていますか。	85	15	-
校外学習、ミュージック・ウィーク、ゲストスピーカーなどの体験型学習活動にご満足いただいていますか。	100	-	-
お子さまは本コースに在籍している間、安全に過ごせていると感じますか。	100	-	-
お子さまは上野学園国際コースでの学びを楽しんでいるように見えますか。	100	-	-
教員と保護者との間のコミュニケーションは効果的だと感じますか。	100	-	-

自由記述よりまとめ

・評価された点

多様な体験活動を通じて生徒が幅広い分野に触れる機会が提供されている点や、日本語によるスピーキング力の向上など、語学面での成長が高く評価されている。また、英語を中心に授業が行われる点は、本コースの大きな特徴として認識されており、制度的な安定性とあわせて、国内外の進学に対応可能な英語力を育成するカリキュラムに対して価値を見出す声が多く寄せられている。

一部には国際的な環境への不安を示す声もあるが、私立学校としての確立された教育体制に対して安心感を抱いている意見も多く見られた。思考力や問題解決力の育成を重視した授業方針に対しても高い評価が寄せられており、本コースが生徒にとって意義深い学びの場となっていることがうかがえる。さらに、英語初心者に配慮した支援体制や、少人数制による個別対応のしやすさについても肯定的な意見が多く、学習環境としての充実が評価されている。

・改善が求められた点

本プログラムに関しては、ケンブリッジAレベルに関する情報提供が十分でないとの指摘があり、進路選択を支援するために、より具体的かつ体系的な案内の充実が求められている。また、生徒の特性や興味に応じた柔軟な学習支援の強化にも期待が寄せられている。

日常会話において日本語が使用されることに対して懸念の声があり、特に英語力に関する心理的なハードルや言語切り替えの難しさが課題と認識されている。このため、読み書きを含む総合的な英語力の向上が必要とされている。

・その他の意見・感想

学校からの連絡については、紙媒体に加えデジタルツールの活用を望む声があり、保護者の利便性

向上が期待されている。さらに、年間行事予定表において本コースに該当する行事がわかりにくいとの指摘があり、関連情報のより明確な提示が求められている。

プログラム全体には概ね満足しており、教職員への感謝の声も多いが、長期間続いたタブレット端末の不具合への対応や報告を求める意見もあった。

また、中間・期末考査のクラス順位開示については理解が示される一方で、順位が低い生徒の学習意欲低下が懸念され、個別面談などを通じた丁寧な伝達が望まれている。加えて、保護者向け文書が英語のみで配布されていることに対し、日本語併記を求める声もあり、円滑な情報共有のための配慮が必要とされている。本コースのさらなる発展に対する期待も多く寄せられている。

結び

ケンブリッジ国際教育プログラムが日本の学校教育法第 1 条に基づく学校において本格的に導入されたのは今回が初めてであり、その複雑さを考慮すると、初年度は全体として成功であったと評価できる。当初掲げた教育目標は達成され、プログラムは本校の教育課程に効果的に組み込まれた。生徒個人としてもクラスとしても順調に成長しており、保護者からの評価も概ね良好である。

一方で、生徒や保護者からのフィードバック、ならびに本校教職員による観察および評価に基づき、さらなる改善の必要性も認識している。すでにいくつかの改善策を講じており、今後もプログラムの持続的な発展を図るため、開設 2 年目においても継続的なモニタリングと柔軟な調整を行っていく所存である。